



平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える
神道ジャーナリズム誌

本号の内容 「主張」 「大阪都構想」 否決される神道、保守の思想とは相容れない 「維新の会」 の思想と訣別しよう (木川智) : 1 / 花瑛塾十月活動報告 : 3 / 「連載」 記録沖繩戦 ⑧ 軍民・日米それぞれの視点から (沖繩戦史研究会「棒兵隊」) : 6 / 「連載」 葦津珍彦と神道ジャーナリズム 「時の流れ」 を読み解く 9 (鎌倉佐助) : 12 / 花瑛農園 学生支援と農業体験 体験記 (仲村之菊) : 14 / 編集後記 : 16

1部 1000円

神道、保守の思想とは相容れない 「維新の会」 の思想と訣別しよう

「大阪都構想」否決される

神苑の決意 木川智

【主張】 十月二十六日に臨時国会が開会し、菅首相が所信表明演説をおこなった。今年九月の菅首相の首相親任式から一カ月以上、そして今年六月の通常国会閉会から数えて四カ月以上の時を経て、ようやくの国会開会である。

この間、コロナ禍は全く収束せず課題山積したままであり、さらに安倍前首相の辞任といった重大な政局があった。また日本学術会議の六人の会員の任命拒否問題では、任命拒否をした菅首相に説明責任が求められる事態となっており、一刻も早く国会を開会し、政策の審議と推進、そして事実究明がなさ

れる必要があったが、今日まで引き延ばされた。

菅政権は成立したばかりであるが、学術会議の任命拒否ばかりでなく、コロナ禍での中曽根元首相の内閣・自民党合同葬の強行や、福島第一原発事故の放射能汚染処理水の海洋放出、そして沖縄の基地問題など、様々な問題において、民主主義を無視した危険な独裁的な権力行使の姿を見せている。

しかし安倍政権においてもそうであり、それは何度も指摘し続けたことであるが、民主主義を機能停止させて延命をはかるのが近來の政権運営の常道であり、今日まで国会から逃げ、まともな記者会見を

行わないのも、まさにそのための一手である。そうであれば国会で議員たちが厳しく追及し、メディアが的確な報道を行い、民主主義が活発化すれば、菅政権などあつという間に倒れる。逆をいえば、それがなければ政権は延命する。その点をよく理解してほしいと思う

■ 「大阪都構想」、住民投票で否決される

さて、今号巻頭ではそうした問題もさることながら、いわゆる「大阪都構想」が住民投票で否決され